A

☆　記入例

氏名　福島　太郎	学年　5	生年月日		作成者	××　××

障がい等の状態 学習上・生活上の困難さ	集中力の持続が困難。思いどおりにならないと乱暴な言動になることがある。字形を整えて書くことが苦手。漢字を覚えることが苦手。（読みは OK）
障がい名・疾患名	ADHD　　（コンサータ服用）
本人の思い （学校生活での希望、進学先、将来について等）	友だちと楽しく学校生活を送りたい。テストでもう少し点数を取りたい。みんなが手伝ってくれるが、自分の力でやりたい。将来の夢は分からないが、高校には行って、勉強したい。
保護者の願い （本人の将来の姿等）	仕事に就いて、自立した大人になってほしい。思いどおりにならない時でも、暴れないで対処できるようになってほしい。
本人の良さ・興味関心・遊び・強み等	虫、ヘビが好き。絵がうまい。運動が得意。嫌なことがあっても、すぐに切り替えて友だちと仲よくできる。

（支援目標設定の理由）
書字の困難さや不注意による失敗等の経験から自己肯定感が低下し、学習への取組も消極的である。本人・保護者の思いも踏まえると、学習の定着が必要である。そのためには、本人が集中して取り組める環境づくりや、困難さを軽減するための支援、精神的に不安定になった時の支援が必要である。本人のできることが増えることで、気持ちを安定させて学校生活を送ることにつながると考える。
支援目標（◎支援　○指導）
◎書きの負担を軽減する　　◎集中しやすい環境づくり　◎精神的に不安定になった時の支援 ○書字以外の記録できる技術を獲得・低学年程度の読み書きの定着　○イライラした場面での対応

各連携機関の支援内容等	
機関名	**支援内容**
○○クラブ （学童）	・宿題の見守り。 ・精神的に不安定になった時にリラックスできるスペースを設ける。
××病院	・薬の効果や服薬のきまりを伝える。 ・本人にとって必要な合理的配慮について相談。

支援内容・方法（個別に必要とする合理的配慮等）	**支援の評価**
【教育内容・方法】 ・本人への板書内容の量を調整し、授業後、デジタルカメラで撮影、ファイル化して学習を保障する。 ・単元テスト等に関しては、別室で、口頭による代替え筆記によるテストを行う。 ・障がいから生じる困難さ（書字、不注意）を改善、克服する指導として通級指導教室を利用する。詳しくは個別の指導計画へ（支援目標の指導部分）。	→**継続**：学習の復習ができ、理解力も向上。 →**継続**：落ち着いてテストに取り組み、結果について本人も喜んでいる。 →**継続**：詳しくは個別の指導計画へ。今後も、通級指導教室と連携し、指導。
【支援体制】 ・通級指導教室と連携した支援、指導。 ・定期的に SC との個別懇談を実施。	→**変更**：本人から、SC との懇談は大丈夫とのこと。次年度は、本人が必要時のみ。
【施設設備（学校、教室等）】 ・精神的に不安定になった時のクールダウンスペースを確保する。	→**終了**：クールダウンスペースが必要なくなってきた。
・注意がそれやすいことから、座席位置、掲示物等に配慮する。	→**継続**：注意がそれなければ学習へ集中している。

上記の内容を確認しました。

令和○年○月○日　　児童生徒名（　　）
保護者名　（　　）